

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2024年 6月 21日

会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 大学院医学研究科 消化管外科学

職名・学年 博士課程2年次

氏名 水野 良祐

助成の種類	令和6年度 ・ 国際研究集会発表助成			
研究集会名	第32回 ヨーロッパ内視鏡外科学会			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()			
発表題目	Comparison of Recurrent Prognosis between Robotic and Laparoscopic Surgery in Locally Advanced Rectal Cancer: A Multi-center Retrospective Cohort Study in Japan			
開催場所	オランダ・マーストリヒト			
渡航期間	2024年 6月 10日 ～ 2024年 6月 17日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円		
	使用した助成金額	350,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳	費目	金額(円)	
		航空運賃	200,000	
		宿泊費	100,000	
		滞在費		
		学会参加費	50,000	
その他				
	以上に助成金を充当			
当財団の助成について	採択いただき、ありがとうございました。			

成果の概要/水野良祐

「Comparison of Recurrent Prognosis between Robotic and Laparoscopic Surgery in

Locally Advanced Rectal Cancer: A Multi-center Retrospective Cohort Study in Japan」

京都大学関連病院 16 施設における大腸癌レジストリデータベースを用いて、局所進行直腸癌に対するロボット手術と腹腔鏡手術の 2 年無再発生存割合を比較した。

2018 年から 2021 年の間に、cT3-4 で遠隔転移のない局所進行直腸癌に対して低侵襲手術を受けた患者 679 人を対象とした。ロボット手術は 328 例、腹腔鏡手術は 351 例であった。年を経るごとにロボット手術の割合は増加し、また規模の大きい病院ほどロボット手術の割合が高かった。

平均手術時間はロボット群で有意に長かった(448 分 vs 387 分)が、術後合併症には差を認めなかった(32.4% vs 29.8%)。2 年無再発生存割合は 81.6% vs 77.7%でややロボット群が良好な傾向であったが、ハザード比 0.81 (0.52-1.25)と有意差は認めなかった。R0 切除割合については 98.8% vs 94.3%とロボット群で良好な結果であった。

質問：R0 切除割合で優れるにも関わらず 2 年無再発生存に有意差がないのはなぜだと考えていますか。

回答：今回の 2 群の調整因子としては術前変数のみであり、術後補助化学療法の有無やその内容などは調整していないため、後治療の内容が再発予後に影響した可能性はある。